

令和 6 年度

運営に関する計画



大阪市立常盤小学校

大阪市立常盤小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校には1300名近い児童が本校(4学年)、分校(2学年)に分かれて在籍している。大阪市でも有数の大規模校であるにもかかわらず、運動場は中規模校と同程度の広さしかなく、どの学級教室も定員いっぱいの児童がひしめき合って活動している状況である。校内の児童の人口密度が高いことに加え、校舎間の移動、校舎から講堂への移動にあたっては、一般道路を横断せざるを得ない構造になっており、学校環境の側面から考えたとき、児童の精神的ストレス度合は他の小学校児童と比べて極めて高いといえる。そのことの弊害として、ケガや、児童間のいざこざをはじめとする生活指導上の問題発生が比較的多い状況がある。この解消にあたっては、単に「規則遵守の指導の徹底」だけでは不十分であり、児童の規範意識の醸成に向け、道徳的な判断力等の育成、自他を尊重する態度の形成、危機回避意識の育成を図ることが重要と考える。

- 本校の児童は、教職員の熱心な授業研究・教材研究により、学習に対して意欲的に取り組むことができおり、学力については、例年、全国学力・学習状況調査においては全国平均を、大阪市小学校学力経年調査においては大阪市平均をおおむね上回る成績を残している。

児童の学力向上にあたっては、教員の研究研修は欠かすことはできないものであり、とりわけ、児童の実態(理解度・関心度等)を踏まえ、児童が意欲的に取り組み、「わかる・できる」授業を提供していかなければならないと考える。そのためには、学習指導要領の改訂内容をふまえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」をテーマにした研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および経験の少ない教員の育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させていく必要がある。また、授業内容に応じて、ICT機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させていく必要性もあると考えている。

体力の向上にあたっては、冬季におけるかけあしタイム・なわとびタイムの設定、体育授業における運動量の確保を全校で取り組みを行ってきた結果、前述したように一人当たりの運動できる場所は他校と比べて圧倒的に少なく、地域にも運動できる場所が少ないにもかかわらず、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力合計点の全国平均や、大阪市平均との差は徐々に縮小してきた。今後も、体育的活動の工夫、体育授業の改善をはかっていくことにより、体力の向上を図っていく。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

- 1 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 2 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- 3 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- 4 令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を77%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、令和5年度の正答率と比較して、いずれの学年も1ポイント向上させる。
- 2 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を35%以上にする。
- 3 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 4 令和7年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を、62.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超える。
- 2 令和7年度に、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を82%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- 2 小学校学力経年調査における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 92%以上にする。
- 3 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。
- 4 小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。
- 2 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を 36%以上にする。
- 3 小学校学力経年調査における、「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。
- 4 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 63%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超える。
- 2 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。

大阪市立常盤小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安心・安全な教育の推進】 1 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 2 小学校学力経年調査における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を92%以上にする。 3 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。 4 小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全安心な教育の実現】 相互理解、仲間づくりの取り組みを、日々の教育活動の中で行うようにする。小さな問題にも、チームで対応していくようにする。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向1 安全安心な教育の実現】 子どもの安全に関わるものに重点を置くようにする。（廊下や階段は走らない、教室で暴れない、運動場やボールの使い方など）校則の目的や意図、ルールを守る大切さについて指導するようにする。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向1 安全安心な教育の実現】 「心の天気」の入力・活用を推進し、児童の心情の変化を把握することで、児童のケアやサポートなどの早期対応につなげていく。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳の学習や学級活動、朝の会・終わりの会、月1回以上の「縦割りペア集会」、「ときわのつどい」など、各種教育活動や学校行事の実施を通して、児童の自己肯定感を高める。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。	

大阪市立常盤小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 1 小学校学力経年調査における、国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 2 小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を 36%以上にする。 3 小学校学力経年調査における、「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。 4 小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 63%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究で算数科の研究を行い、公開授業を各学年 1 回以上実施する。主体的な学びに向かうことができるような授業の工夫を行う。	
指 標 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 児童が自分の考えをもち話し合うことができるような活動を、毎日の授業の中で取り入れる。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 36%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 自然の事物・現象とのかかわりを大切に、体験を重視した授業づくりや観察・実験の充実を図り、ICT 機器を活用した観察・実験の記録を取り入れ、学習のふりかえりを行うことができるようにする。	
指 標 校内アンケートや小学校学力経年調査における、「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。	

取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】

- ・年間指導計画に沿って授業を行い、様々なスポーツの楽しさや喜びに触れられるようにする。
- ・教職員に向けた研修会、なわとび週間、かけあし週間等の取り組みを行い、教員の資質能力の向上を目指すとともに、児童が主体的に学ぶことができるようにする。
- ・体育の見方・考え方（する・みる・支える・知る）をバランスよく取り入れた授業を行う。

指 標

校内アンケートや小学校学力経年調査における、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 63%以上にする。

大阪市立常盤小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 1 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超える。 2 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 ICT 活用についての教員研修を学期に 1 回以上行ったり、毎月 1 回以上担当教員間での情報交換を行ったりすることで、学校全体で ICT の効果的な活用を推進する。	
指 標 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数を、年間授業日の 50%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・業務の役割分担や学校行事の実施方法等について、振り返りやアンケート等で意見を集約し、より効率的な方法・手段にするよう検討を進める。 ・標準授業時数を確保しながら 5 時間授業日や学校閉庁日を設定するなど、多忙化を解消し、ゆとりを生み出すための取り組みを行う。 ・教職員の働き方の改善に向けた取り組みについて、保護者・地域にプリントを配付する等して、理解と協力を求める。 ・教職員は、勤務時間を意識した働き方を行う。「ゆとりの日（17:00 までに退勤する日）」を月 2 回程度設定する。 ・スクールサポートスタッフを活用し、教員の業務軽減を図る。	
指 標 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 82%以上にする。	